令和５年度 独立行政法人福祉医療機構
社会福祉振興助成事業 報告書

車いすで安心して外出できる
地域支援体制のモデル構築事業

一般社団法人 WheeLog

もくじ

❶ プロジェクト概要 4

❷ 車いす街歩きプログラム活用事例 14

事例①　墨田での取り組み 16

事例②　町田での取り組み 28

❸ プログラムの効果 40

❹ 事業の評価 46

❶ プロジェクト概要

大切な人が車いすユーザーになった時、今と同じようにその人と一緒に街に出ることができますか？

杉山 葵
一般社団法人 WheeLog 事務局

『車いすだからあきらめる社会』を解決

あなたの身近な人に車いすの方はいらっしゃいますか？いま日本では約 50 万人の方が自宅で車いすを利用しています。しかし、街中で車いすの利用者を見かけることはあまりないのが実情です。車いすユーザーは普段、ちょっとしたことに不便を感じています。

・車いすで入れるトイレがない
・車いすで乗り降りできる駐車場がない
・お店の入口に段差があって入れない

こうした社会にある障壁（バリア）は、単に移動に困るだけでなく、車いすユーザーの人生の可能性を狭めることにつながります。

地域の課題

地域包括ケアシステムの下で、介護保険や医療保険を提供することは、高齢者向けの医療サービスや介護予防といった取り組みが進められています。しかしながら、年齢や障害の違いにより、コミュニティの通所サービスなどに馴染めない人も多く、自宅で孤立している状況があります。また、車いすユーザー自身が自発的に参加したいと思える機会も少ないのが現状です。

アプリを利用してバリアフリー情報を提供

車いすユーザーは、目的地に関する情報や経路に関する総合的な情報を必要としています。しかし、自治体が提供するバリアフリーマップは、施設のバリアフリー整備状況の情報しか提供されていない場合がほとんどです。また、これらの情報も継続的に提供されているわけではありません。私たちの団体では、スポットと経路のバリアフリー情報を継続的に提供・更新できる媒体であるアプリを開発しており、バリアフリー情報の提供に関する課題を解決します。

車いすでも楽しめる社会参加の機会を提供

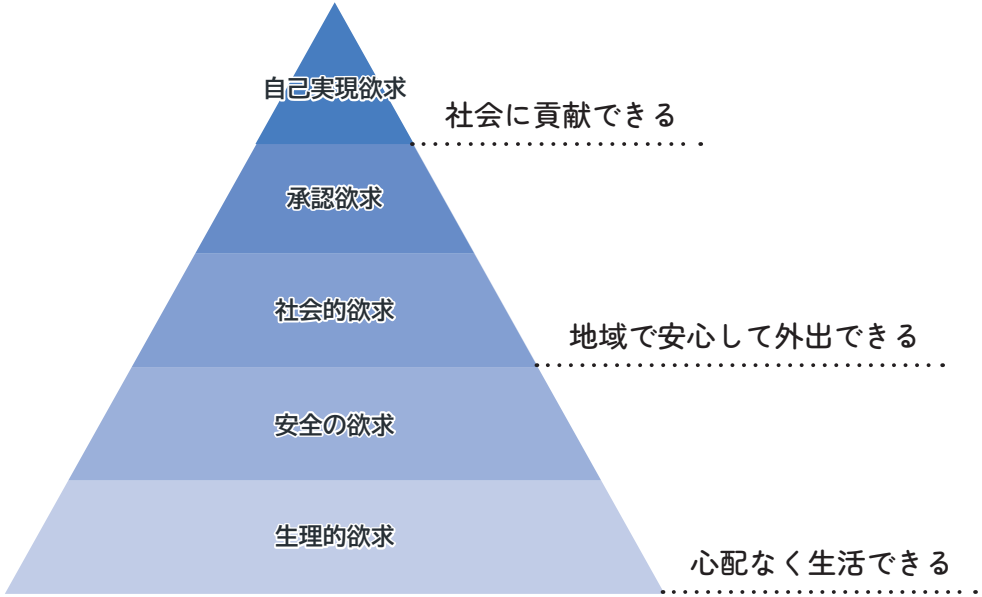
私たちの団体では、歩ける人も含めて地域の様々な人が一緒に参加できる街歩きプログラムを実施し、多くの車いすユーザーに外出の機会を提供しています。

今回のプロジェクトでは、医療・介護関係者、地方自治体関係者、企業、車いすユーザー、学生など、合計 152 人の方々が車いす街歩きプログラムに参加し、バリアフリー情報は 194 箇所が集まりました。また車いすユーザーの外出範囲の拡大が見られるなど多くの方々と協力できたことで、今回、地域支援体制のモデルが構築できたと確信しております。私たちは、今後も車いすユーザーが安心して外出できるよう、地域支援体制の充実を目指していきます。ぜひ、今回のプロジェクトの成果をご覧ください。

2024 年 3 月

車いすでもあきらめない世界をつくる

車いすユーザーが・・・



マズローの欲求 5 段階説

車いすユーザーは、機能障害や社会や環境にある様々な障壁（バリア）が障害となり、外出や社会参加をあきらめることが多いのが現状です。こうした状況は、車いすユーザーの教育や就職・結婚など、人生のさまざまな可能性を狭めてしまいます。

私たち WheeLog!（ウィーログ）は、こうした課題を解決するために、車いすユーザーが外出をあきらめず、地域で安心して外出ができ、社会に貢献できる世界をつくるために活動しています。

車いすユーザーと地域の各プレーヤーの課題

Wheelog.

孤独を感じてしまう

日常生活で外出の
機会が少ない

車いすユーザー

外出に不安を感じて
控えてしまう

バリアフリー情報が
なかなか手に入らない

地域の人と接する
機会や場所がない

社会と繋がっている
感覚が持てない

街中はバリアが多い

車いすユーザーの
サポートの方法が
わからない

地域住民 / 学生

自分が行ったことのある
範囲でしか情報を
提供できない

地域の
バリアフリー情報を
提供できていない

医療 / 福祉従事者

公的サービス以外で地域で
参加できる場所や機会、
その情報を提供できていない

医療 / 福祉団体

バリアフリー情報を
うまく市民に
届けられていない

自治体

車いす街歩きプログラム　～地域の課題を解決するために～

プログラムの内容

車いすユーザーや地域の各プレーヤーが抱える課題を解決するための方法として、車いす街歩きプログラムを実施しています。

①座学

プログラムの説明を受け、車いすの説明やバリアフリー情報についての必要な知識を学ぶ。

②車いす体験

チームに分かれて街中を車いすで散策しながら、ミッションに挑戦する。

③バリアフリー情報収集

トイレやエレベーターなど、街中のバリアフリー情報を収集して、WheeLog! アプリに投稿する。

④振り返り

街歩きで気づいたことや改善点などをチームで話し合い、まとめ発表し、全員で共有する。

プログラムの効果

車いす街歩きプログラムは、車いすユーザーや地域プレーヤーの課題解決につながります。

外出意欲の向上

車いすユーザー

心のバリアフリーの醸成

地域住民 / 学生

地域交流の場の創出

医療 / 福祉団体・従事者

地域のバリアフリー情報拡充

自治体

車いす街歩きプログラムを実施するには？

車いす街歩きプログラムを開催するには、いろいろな準備が必要です。プログラムの準備に必要な事項をまとめましたのでご参考ください。

スケジュール

＜１日の場合＞
09:00 ～ 10:30　会場準備
10:30 ～ 11:30　座学
11:30 ～ 15:00　車いす体験＆
　　バリアフリー情報収集
15:00 ～ 17:00　振り返り

参加対象者

・地域の車いすユーザー
・地域住民・学生
・医療 / 福祉従事者・事業者
・地域包括支援センター職員
・自治体職員
・教職員 / 学生　など

会場

・市民センター
・生涯学習センター
・地域包括支援センター
・貸し会議室
・学校　など

備品

・車いす
・ミッションシート
・まとめシート
・付箋
・水性ペン

運営資料

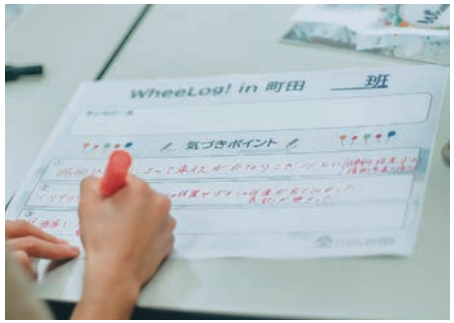
・説明スライド
・班分け表
・受付表

スタッフ役割

・統括
・当日スタッフ
・司会
・記録

ミッションシート

まとめシート



プログラムのよくある質問

プログラムの実施には何時間くらい必要ですか？

→通常は１日のイベントで、７時間程度のプログラムです。必要に応じて体験の時間を短くしたり、座学と体験を分けたりすることも可能です。

参加者は何人くらい集めますか？

→一般的なイベントでは 40 ～ 50 人ほど集めて開催しています。会場の広さや街歩きのエリア等を考慮し、60 人くらいまでがおすすめです。

会場はどこが良いですか？

→地域の市民センターや地域包括支援センターなど、バリアフリー対応が行き届いた公共施設を借りるのがおすすめです。

車いすはどうやって準備しますか？

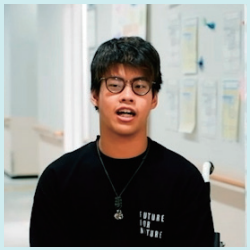
→地域の社会福祉協議会や福祉事業者の方からお借りしています。車いすを借りた際は、タイヤの空気やブレーキを確認しましょう。

プログラムの詳細は WheeLog 事務局までお問い合わせください。
info@wheelog.com

参加者の声　～プログラムの効果①～

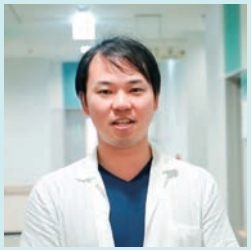
街歩きプログラムを実施することによって、車いすユーザーの「外出意欲の向上」などの心理的変化が見られました。この心理的変化について、アンケートを実施することによって、プログラムが車いすユーザーの社会参加の「機会創出」に効果があることが確認されました。また、同様にアンケート分析で、歩ける人の「心のバリアフリー醸成」の意識変容についても変化が表れることが確認されました。

参加者の声は動画もチェック



車いすユーザー

WheeLog! 街歩きに参加するのは初めてで、どういう感じになるのかと思ってたけど、普段住み慣れてない街を街歩きすることで、普段感じないような車いすユーザーの気づきだったり、街の人の温かさなどを感じることができて、とてもいい経験になったと思います。



福祉従事者

街の中で車いすを押したり、自分が乗るという体験が初めてで、全然施設内で押すのとは別物なんだということを、知識だけではなく身体で感じられたことは、本当にいい経験になったと思います。このイベントを自分の法人のスタッフにも広めて、参加を促していきたいです。

車いすユーザー

今まで外に出るのが億劫な人でもなんとなくいつでも参加できるし、もし機会があるなら参加してみて嫌だったら次来なければいいだろうし、外に出てしまえば意外と人が助けてくれるので、みんなもっと参加した方がいいと思います。

地域学生

友人に車いすユーザーの方がいたり、一緒に街歩きの経験はあったけど、自分自身が車いすに乗って街を歩くのは初めてだった。色んな道を知っているつもりだったけど、それは自分視点での理解というか、車いすだったらどういう風に通れるのかをあまり気にしてないなという所を気づくきっかけになりました。

地域のバリアフリー情報の拡充　～プログラムの効果②～

街歩きプログラムを実施することにより、地域のバリアフリー情報が充実しました。
実際にプログラムの中で、参加者によってスマートフォンアプリ「WheeLog!」にバリアフリースポットの情報や、車いすで移動した道の情報が投稿されました。
東京の墨田と町田で実施したときは、４回のプログラムで合計で 200 件近くのスポット情報が投稿されました。

墨田

2023 年 7 月

2023 年 9 月

町田

2023 年 7 月

2023 年 9 月

スポット投稿例

トイレ

レストラン

車いす街歩きプログラム

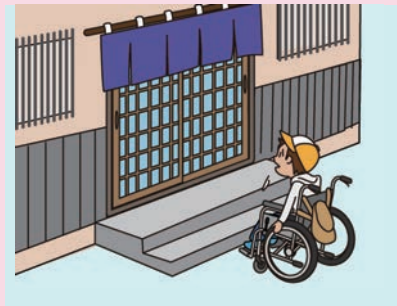
地域のバリア

受傷 / 病気

車いすユーザー
約 50 万人

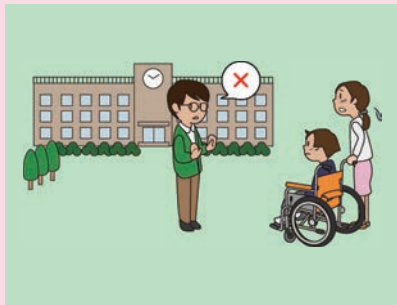
車いす街歩きプログラムによる
バリアフリーの推進

物理的なバリア



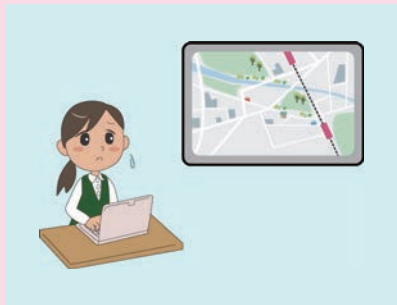
入口に段差があってお店に入れない

制度的なバリア



制度を理由に断られる

文化・情報面でのバリア



外出に必要な情報が見つからない

車いすユーザーの
外出意欲の向上

地域住民 / 学生の
心のバリアフリーの醸成

地域の
バリアフリー情報拡充

意識上のバリア

混雑していてエレベーターに乗れない

外出の不安
無力感
失敗の経験

→

外出機会の減少
社会的孤立
死

事故や病気などが原因で車いすの利用を新たに始める人は、年間で 1.8 万人いると言われています。車いすを使用した生活を始めると、社会の様々な「バリア」に遭遇します。このバリアには、「物理的」「制度的」「情報」「意識」の 4 つのバリアがあります。これらのバリアによって車いすユーザーは外出の不安や無力感を感じ、失敗の経験をし、これらの経験を何度も繰り返すことで、次第に外出の機会が減り、社会から孤立して、最悪のケースでは死に至ります。

地域交流の場の創出

外出の安心感
成功体験

→

外出機会の創出
社会的孤立の解消

車いす街歩きプログラムを通して、地域のバリアフリーを推進することで、車いすユーザーの外出意欲が向上し、地域の住民たちにとっても心のバリアフリーが醸成されます。さらに、イベントによってバリアフリー情報が拡充し、地域住民の交流の場が増えることで、車いすユーザーの外出の安心感も増し、地域での外出の機会が増え、社会的孤立という課題の解消につながります。

❷ 車いす街歩きプログラム活用事例

車いす街歩きプログラムを活用した事業

A：コア人材の育成研修

街歩きプログラムを深く理解し、地域特性を活かしてプログラムを実施 / 運営できるコア人材を育成します。

対象者：　地域共生のまちづくりに意欲のある
車いすユーザー、医療福祉従事者等

B：車いす街歩きイベント

地域住民を交えたイベントを実施して「車いすユーザーの社会参加の機会創出」と「地域のバリアフリー情報の充実」を図ります。

対象者：　車いすユーザー、地域住民、高齢者、医療福祉従事者
地域包括支援センター職員、自治体職員
サービス事業者職員、教育機関従事者、学生

令和５年度独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業

医療・福祉従事者向けに、東京都墨田区、東京都町田市で、車いす街歩きプログラムを活用した事業を実施しました。

事例①墨田での取り組み

2023 年 7 月 15 日（土）A：コア人材の育成研修
2023 年 9 月 16 日（土）B：車いす街歩きイベント

事例②町田での取り組み

2023 年 7 月 30 日（日）A：コア人材の育成研修
2023 年 9 月 30 日（土）B：車いす街歩きイベント

街歩きの様子を見る

事例①

墨田での取り組み

個人の課題やニーズから
地域独自の仕組みへ

墨田のこれまでの取り組み ～ 2022 年から車いす街歩きを実施～

地域ケア会議

70 歳代　男性　要支援 1
高齢者支援総合センター　PT　OT
墨田区高齢福祉課　　管理栄養士
訪問介護　　福祉用具事業所

墨田区では、地域包括支援センターを高齢者支援総合センターと呼んでいます。

街歩きをはじめたきっかけは、地域ケア会議でした。地域ケア会議とは、地域ケアシステムを実現するための1つの手段で、個別ケースでの課題と解決策を多くの専門職で多面的に検討して、そこから見える地域課題を把握していきます。地域ケア会議を重ねることで、地域独自の街づくりや施策に役立てていきます。

2022 年 4 月 25 日に、W さん本人が参加のする地域ケア会議を行いました。W さんは 33 年前から電動車いすで生活しているユーザーで、電動車いすで地域を移動した情報を記録した「回遊録」を自ら作成していました。この会議でWさんが「障害も持っていても移動手段やバリアフリー情報があれば、一人で自由に外出できるという経験を地域の人と共有したい」と希望していました。

WheeLog! フレンズ墨田　車いす街歩き

歩ける人：12 名　車いすユーザー：3 名
高齢者支援総合センター ＰＴ ＯＴ
福祉用具業者 経営者

地域課題として、車いすを利用している、もしくは利用を検討している方が、安心して外出するための情報が不足していました。これらを踏まえて「高齢者が役割や生きがいを持って住み慣れた地域で生活できること」を長期目標にして、短期目標を、車いすでも安全・安心して外出できるように、地域のバリアフリー情報の調査してマップ作成をすることになりました。

回 遊 録

令和4年4月24日

No. 1

私が、電動車椅子を使って生活を始めたのが、平成3年3月16日（金）からでした。
当初は、行く先々の情報が何も無かったので、慈道にコツコツと資料集めを始めました。
電動車椅子のバッテリーの目盛一つが約3kmで、計算してます。
主に住居地を拠点にして範囲が、上野、浅草、錦糸町、八広界隈を行き来して調べて有ります。
アメニティートイレとエレベーターが、心配なので付録して置きました。
行った先々の施設の始どでは、気持ち良く充電させてくれて一部部分では、管理上出来ない所がありますバッテリーの目盛一つが、約3kmです。表示数は片道です。

名称	電話番号	バッテリーの目盛数	距離数	アメニティートイレ	エレベーター
スカイツリーsoramati	03-5302-3480	1	3.3km	有り	有り
浅草駅舎(元松屋)	03-6802-8633	1	3.3km	有り	有り
上野国立西洋美術館	03-6671-9355	2	6.6km	有り	有り
上野松坂屋	03-3822-1111	2	6.4km	有り	有り
両国江戸東京博物館	03-3626-9974	2	5.7km	有り	有り
両国総園大徳院(回向院裏)	03-6230-2272	2	6.1km	有り	有り
両国回向院	03-3634-7778	2	6.0km	無し	無し
丸井錦糸町店	03-3635-0101	2	5.8km	有り	有り
丸井上野店	03-3833-0101	2	6.1km	有り	有り
北斎美術館	03-6658-8931	2	5.0km	有り	有り
オリンピック墨田文化店	03-5247-3211	2	2.8km	有り	有り
大横川親水公園(押上～錦糸	03-5608-6661	2	1.8km	無し	無し
イトーヨカ堂曳舟店	03-3616-4111	1	1.5km	有り	有り
墨田区役所、福祉課	03-5608-6163	2	3.3km	有り	有り

WheeLog! フレンズ墨田　車いす街歩き

サービス付き高齢者向け住宅、
グループホーム、老人ホーム
の方々と車いす街歩き開催

その目標達成の手段として車いす街歩きをすること至り、この会議の 2 か月後の 6 月に、WheeLog! の全国街歩きイベントに小規模で参加したのがはじめの一歩になります。2022 年 11 月には、地域のサービス付き高齢者向け住宅、グループホーム、老人ホームの利用者と職員、一緒に街歩きを実施して、地域にあるトイレ情報の収集などを行いました。

W さん自身の個別の課題やニーズから、地域独自の仕組みが発案されていく。こういった地域包括ケアシステムが構築されれば、その仕組みは個別にも有効であり、地域にとっても財産になり、さらに育ちゆくと思います。

コア人材の育成研修 in 墨田

2023 年 7 月 15 日

開催日時：7 月 15 日（土）10:00 ～ 17:00
開催場所：八広はなみずき高齢者支援総合センター
参加人数：25 名（歩ける人 20 名、車いすユーザー 5 名）
主催：一般社団法人 WheeLog
後援：一般社団法人東京都作業療法士会
協力：墨田区
会場提供：八広はなみずき高齢者支援総合センター

東京都墨田区で作業療法士を中心とした専門職の方々や墨田区の地域包括支援センターの八広はなみずき総合支援センターの方々を中心に、団体職員も多数参加しました。そのためか、みなさんかなり真剣に参加されていて、説明や各班の発表を集中して聞いている印象でした。みなさん街歩きイベントを楽しんでいました。地域の高齢者（サービス付き高齢者向け住宅、グループホームなどが住まい）の方々と施設のスタッフが街歩きイベントに参加していただくことをミッションとして設定し、交流を深めることができました。

こういった仕掛けは、地域包括支援センターである八広はなみずき高齢者支援総合センターの協力があってこそかと思います。また、車いすユーザーの参加者は 20 代～ 70 代と世代間の交流もできました。地域の民生委員、区議会議員、地域の情報誌の方々など、地域での関心の高さを知ることができました。今回の車いす街歩きによって、頼もしい仲間とサポーターが増えたことが大きな成果です。

町の飲食店を体験

地元出身の方に案内していただき、普段から車いすで行きつけの、中華屋に行きました。町中華は車いすで入れなさそうなイメージがありましたが、ここは店内が広くバリアフリーでした。

電車に挑戦

改札や駅員さんにスロープをお願いすることから体験してみてもらいました。イメージ以上に大変で時間がかかるということを感じていたのではないかと思います。

街のお店でお買い物

今回の体験で車いすの介助操作に慣れた頃、街の和菓子屋さんに買い物に行ってきました。店内に車いす１台はどうにか入ることができ、食べたいものを選ぶことができました。

街中の小さなバリア

駅に向かう歩道に、自転車避けの為と思われる柵があり、車いすでの通行に若干支障がありました。自転車のマナーが向上すれば、こういう対策も不要になり、より車いすユーザーにも優しい街になるのでは？と思いました。

地域特有の涼みどころ

墨田区では街の薬局が熱中症対策として、涼しいところで休憩できる、猛暑避難所「涼み処（すずみどころ）」を開設していました。出入口がバリアフリーでスムーズに中に入れて、ひと涼みできました。

車いす街歩きを体験して環境的なバリアの多さを実感しました。一方で意外となんとかなることが多いことも体験しました。大事なのはチャレンジ出来る環境。皆様、貴重な学びの機会をありがとうございました。

一色 航
ウィル訪問看護ステーション
作業療法士

コア人材

車いす街歩きイベント in 墨田

2023 年 9 月 16 日

開催日時：9 月 16 日（土）10:00 ～ 17:00
開催場所：八広はなみずき高齢者支援総合センター
参加人数：49 名（歩ける人 43 名、車いすユーザー 6 名）
主催：WheeLog! in 墨田実行委員会、一般社団法人 WheeLog
後援：墨田区、一般社団法人東京都作業療法士会
会場提供：八広はなみずき高齢者支援総合センター
車いす提供：株式会社東京サンメディカル
飲料提供：アサヒグループホールディングス株式会社

前回 7 月に開催したコア人材の育成研修に引き続き、作業療法士などのリハビリ職の方を中心にイベントを開催しました。関心の高い層が集まり、積極的にイベントへ参加し、真剣に取り組んでいる印象でした。特に振り返りのワークでの付箋の数が過去最多だったのではないかと思います。一方で楽しんでる様子もしっかりありました。福祉事業者さんの協力も欠かせないので非常に助かりました。リハビリ職・医療職を中心に墨田区を担っていくことが期待できそうだと強く感じました。

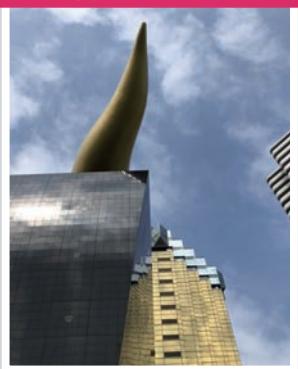
前回参加いただいた皆さんに加えて、今回は新たに医療（リハビリ職など）や介護分野の方、そして知人・友人を誘い、多くの参加がありました。また、地域の高齢者、参加者の子どもと多世代の交流があったのも特徴です。さらに、墨田区役所の方（高齢福祉課・障害者福祉課）や区議会議員など幅広く参加があり、車いす街歩きへの興味・関心の高さを知ることができました。終了後に複数の参加者から、次回はいつ開催するのかと問い合わせがありました。今回は都合で参加できなかったり、急遽欠席となった方からも、次回は参加したいと連絡がありました。この街歩きは 1 度きりのイベントとして終わらせるのではなく、継続して行うことで、地域がより活性化しネットワークが広がっていくと思います。

みんなでミッションに挑戦！

八広中央通りで車いすで
使いにくいところを見つけよう！

曳舟駅周辺で車いすで使いやすいところ、
使いにくいところを調べよう！

墨田区といえばな金のアレを見つけよう！
（写真付きでつぶやく）



スーパーで買い物をしてみて
車いすで不便な点を考えてみよう！

古き良き街並みをみつけて
写真付きでつぶやこう！

スカイツリーを下から見上げてみよう！
（写真付きでつぶやく）

電車好きが喜びそうな写真を撮ろう！
（写真付きでつぶやく）

WheeLog! の魅力はポジティブな変化を生み出す仕組みと、人と人がつながることで地域にじわじわ拡大、浸透していくことだと思います。今回は司会をしながらそれを客観的に感じることができました。

初鹿 真樹
一般社団法人神奈川県西地区
リハビリテーション協議会
作業療法士

司会

みんなの街歩き体験

Wheelog.

みんなで街へ！どこ行いこうかな

アプリで情報チェック

初めての電車、どうなる？

バリアフリートイレ発見！

とにかく暑かった

②体験ミッション

走行ログを記録した	5	
歩道の傾きを体験した	5	
交差点の段差を体験した	5	
人混みの中を移動した	10	
飲食店で食事した	10	
車いすに乗って手動のドアを開けた	5	
お店で棚の商品を手に取った	5	
お店のレジで支払いした	5	
トイレに入って移乗した	10	
トイレの設備を一個一個確認した	5	
トイレを見つけるのに苦労した	5	
エレベーターの鏡を使って外に出た	5	
エレベーターに乗れずに1回以上見送った	10	
エレベーターを見つけるのに苦労した	5	
車いすユーザーさんとバス・電車に乗った	10	
街の人が手助けしてくれた	10	
チーム全員が車いすを体験した	10	

Wheelog.

点

足元まで見える大きな鏡を使ってバック

便座に移乗してチェック

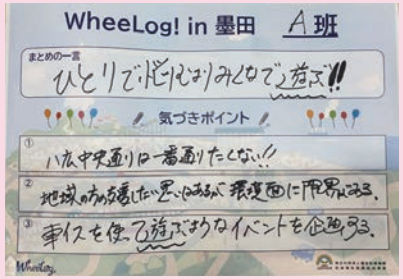
地元の文化祭へ突撃

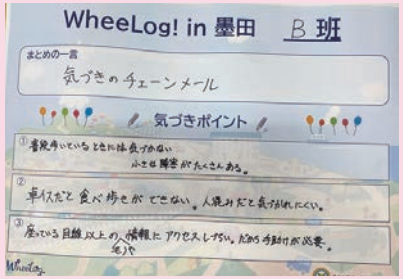
車いすでも使いやすい高さ

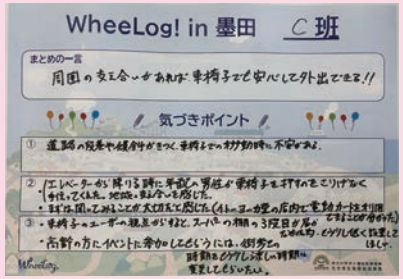
と、届かない？

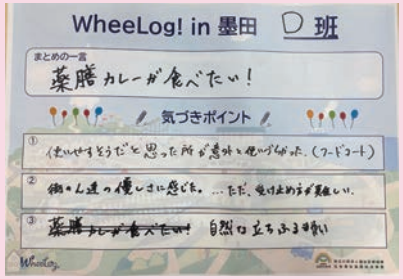
折り畳みスロープが出てきた！

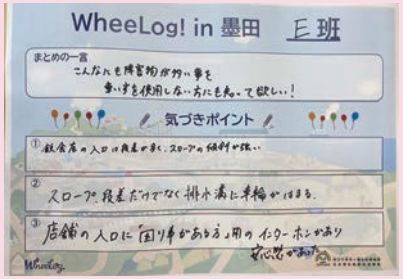
みんなの気づき

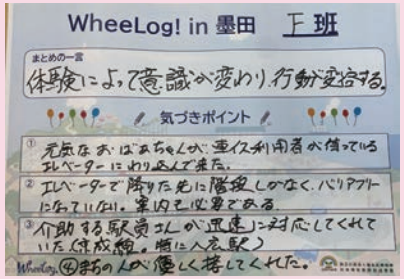


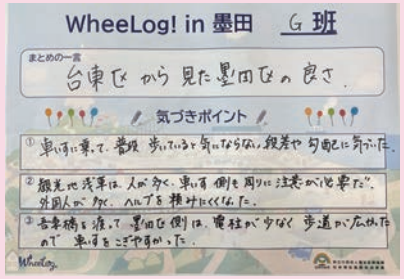












みんなの感想

異業種なので知らない情報がたくさん入ってきてとても勉強になった。車いすは意外と座りやすく快適だったが、道路の傾きや坂が大変、段差も躓くし、電車のホームも怖かった。アプリの存在を知らなかったのでいろんな人に教えてみんなで作っていけたらいいと思う。

会社員、歩ける人

車いすで街に出るのは初めてで今まで知らなかった体験ができて勉強になった。車いすに乗っていると目線がいつもより低くなるので、張り紙とかが見にくいなど様々な気づきがあった。バリアやバリアフリー情報の発信の重要性を感じたし、アプリを活用していくと便利になると感じた。

会社員、歩ける人

車いすを押すことは経験してきたが、街中で自分が車いすに乗るのは初めてなので気づきが多かった。アプリは車いす利用者が実際に書き込んでるので、その情報は貴重で眺めてるだけで面白いので、車いすユーザーが外に出たいと思うきっかけになると思う。

団体職員（福祉と住宅）、歩ける人

街歩きのここが良い！～街歩きエピソード in 墨田～

その 1：男性高齢者の社会参加のきっかけに

7 月と 9 月の街歩き共に、地域包括支援センターが協力しているおかげで、要支援の男性高齢者が参加していました。実は、どの地域でも男性高齢者の社会参加が女性と比べて非常に少ないことが、地域課題となっています。

ですが、今回の車いす街歩きは男性高齢者の参加が比較的多く、写真の 3 名は 1 回目、2 回目ともに参加してくれました。間違いなく楽しかったからです。右の写真の男性は、少し前まで閉じこもっていた方です。でも写真では、女性を乗せて車いすを押してる姿が見えます。車いす街歩きは、男性高齢者が参加しやすいコンテンツで、社会参加のきっかけになるのではと感じています。

その 2：はじめの一歩を踏み出すきっかけに

地域の高齢者（サービス付き高齢者向け住宅、グループホームなどが住まい）の方々とそのスタッフが街歩きに参加していただくことをミッションとして設定し、交流を深めることができました。

こういった仕掛けは、地域包括支援センターである八広はなみずき高齢者支援総合センターの協力があってこそかと思います。また、車いすユーザーの参加者は 20 代～ 70 代と世代間の交流もできました。地域の民生委員、区議会議員、地域の情報誌の方々など、地域での関心の高さを知ることができました。今回の車いす街歩きによって、頼もしい仲間とサポーターが増えたことが大きな成果です。

その３：参加者の声を街づくりに活かせる

街歩きをして、車いすユーザーさんが「八広中央通りは通らないようにしている」と声をそろえておっしゃってました。そして参加者の皆さんが、歩道が狭く歪んでいるところが多くあって、車いすユーザーは、通りにくい場所や怖いと感じる場所を知って、避けながら生活されていることを知ったと話していました。

そして、街歩きに参加した区議会議員さんが、一般質問で、「八広中央通りは、歩道が非常に狭いため、対面で行き違うことも困難である。道路空間を早急に見直すべき。」と提案していました。右に区の回答を乗せてありますが、街歩きを継続していくことで、体験を通した地域の声が、街づくりに活かされてほしいと願っております。

> 八広中央通りは、歩行者や自転車の通行に課題があると認識している。歩道のバリアフリー化や自転車通行空間整備等、安全で快適に通行できる道路とするための検討を進める。
> （すみだ区議会だより NO.233 より一部抜粋）

その４：地域とつながり、居場所をつくれる

Kさんは、ハンドル型電動車いすで外出していて、街歩きの際に、民生委員さんが経営している居食屋「幸」でお昼ご飯を食べました。

お酒が大好きなKさんは。自宅の近くに１人で行ける「幸」を知りました。

「今度、店にくるとよ」と言葉を残して、後日、１人で「幸」に必ずレモンサワーを飲みに行っています。

行きつけの店ができ、地域とのつながり、居場所づくりができるのが、街歩きの効果の１つです。

社会的欲求、承認欲求、自己実現欲求、そして社会的有用性への欲求が充たされる取組

関口 芳正
墨田区役所 福祉保健部長

①革新性、独創性

今回のイベントは、地域、関係者、行政の参加を得られ、車いすユーザーだけでなく車いすメーカー、介護者にも有意義なものとなっていた。地域共生社会を体現するためには、様々な関係者が利害を超えて学び合う機会を創出することが重要であって、この点で今回も先駆的な取組となっており、振り返りに時間を割き、多くの意見をレポートに反映していることは独創的でもある。

②地域連携、包括性

このイベントは、地域包括支援センターの全面的協力のもと、ここに関わる東京リハビリステーション病院のスタッフが連携している。今回は、車いすの障害者だけでなく、高齢者、子供連れ親子、そして、行政職員や地域の区議会議員も参加するなど、包摂的な社会を目指す意識の高いイベントでもあった。

③活動の結果生み出される効果への期待

今回は、多くのグループが墨田区、台東区の有名な観光地、主要な駅をリサーチしている。区議会議員、区役所職員も参加していることから交通バリアフリー、観光バリアフリーなどに対する訴求がある。墨田区のバリアフリーへの取組が更に推進されることが期待できる。

④継続性

今回のイベントもチーム対抗のゲーム性の高いものとなっており、会場の八広はなみずき高齢者支援総合センターでは独自に車いす街歩きイベントを数回開催している。地域も巻き込んだイベントになることが継続性のポイントであろう。

⑤展開性

今回の会場となった八広地域では既に地域のイベントとなりつつあるが、他の地域包括支援センターにも展開されることが望まれる。そのためには、更なる周知と地域関係者、企業とのタイアップが必要であろう。

⑥ストーリー性

今回のイベントでは、高齢者車いすユーザーの方が、これまで渡るのに勇気がなく出来なかった踏切を通る事ができて自信に繋がったとの発言があった。更には数日後に行くコロナワクチン会場に初めて行くことが出来て喜ばれていた。このアプリを活用した街歩きイベントには生きる喜び、できる喜び、チャレンジに向かわせる力がある。

⑦社会課題の解決策としての妥当性

今回のイベントでは具体的にバリアフリーの課題のある道路、駅エレベーター、トイレなどが指摘された。このアプリのリクエスト機能が活用され、施設管理者に直接届くことで課題解決に繋がるものと思われる。

墨田での取り組みのまとめ

感想

- 八広はなみずき高齢者支援総合センター（地域包括支援センター）の協力と地域のネットワークは強み
- 20 代～ 70 代の車いすユーザー、区役所職員、民生委員、区議会議員などが参加して関心の高さ
- 地域の高齢者（サービス付き高齢者向け住宅、グループホーム、老人ホーム）とそのスタッフと交流でき、関係性が深化できた
- 多世代の広がりもあり、車いす街歩きの興味関心の高さを痛感
- 車いす街歩きを地域で継続していくことが大事
- 全国共有の地域課題である男性高齢者の社会参加（社会的交流）の場となる

展望

- 車いす街歩きを八広はなみずき高齢者支援総合センターの事業として継続
- 近隣地域で車いす街歩きが実施できるようにしたい
- 車いす街歩きを通して、個別での成果が見られるため、それを包括や自治体と共有
- 今後、墨田や町田をハブとして様々な地域に発展
- 地域のバリアフリーマップ（パンフレット）の作成

車いすユーザーの社会参加促進

①閉じこもり傾向の男性が 2 回参加

②避けていた踏切を渡る経験により移動範囲が拡大

③自宅近くに居酒屋を見つけ、居場所が増えた

歩ける人の心のバリアフリー醸成

①車いすはけっこう楽しい。道路のあらゆるところが歪んでいると気がついた

②車いすで街に出るのは初めてで今まで知らなかった体験ができて勉強になった

③歩きだと簡単なことも車いすだと時間がかかる

WheeLog! のコンテンツは、個別支援と地域支援に役立てることができます。個人の課題やニーズは地域の課題やニーズにつながり、それが街づくりに発展するプロセスを経験できました。

大場 秀樹
東京都リハビリテーション病院 作業療法科 主査

自分の住む地域で地域の方々と一緒に WheeLog! の街歩きイベントを開催することができて非常に嬉しかったです。今回の取り組みで WheeLog! が街づくりに役立つと伝えることができたのではないかと思います。

鳥越 勝
とりすま　筋ジス活動家

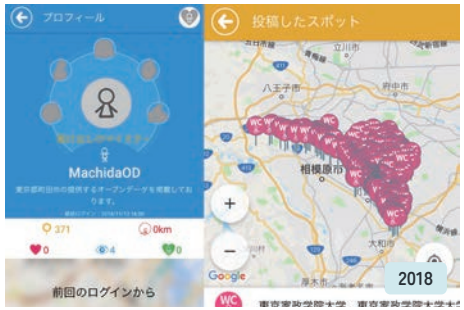
事例②

町田での取り組み

医療・福祉・行政

多様なプレーヤーの連携協力

町田での取り組みの背景　～ 2018 年から車いす街歩きを実施～



町田市のオープンデータの提供

WheeLog! 車いす街歩き in 町田

WheeLog! フレンズ町田 車いす街歩き

まちだサスティナビリティフェス in 町田マルイ

町田市は WheeLog! とのつながりが長く、6 年前の 2018 年に町田市で行われていた「町田まるごと大作戦」というプロジェクトの一環で、ハンディキャブ友の会の井上さんと WheeLog の共催で町田市役所を会場にした車いす街歩きイベントを開催しました。

イベントに先立ち、町田市がオープンデータとして公開していた市内のトイレのバリアフリー情報 371 件を WheeLog! アプリに提供もしています。

そして、2021 年頃から町田で働く理学療法士、作業療法士のメンバーや、WheeLog! 運営委員のメンバーを中心に、「WheeLog! フレンズ町田」という役割をいただき、イベントの企画・開催を行って参りました。

実は 2020 年に一度街歩きイベントを企画していたのですが、この時期はコロナ禍の真っ最中であったため、緊急事態宣言が出て中止せざるを得ない状況でした。

2021 年 3 月には、町田の駅前にある町田マルイという商業施設のイベント「まちだサスティナビリティフェス」で、WheeLog! とのコラボイベント・ブース出展を行いました。この時も運悪く緊急事態宣言中であったため、企画していた車いす街歩きイベントは中止し、代わりにオンライン対談イベントを実施しました。

そして、ようやく 2021 年 11 月に 3 度目の正直で車いす街歩きイベントを開催することができました。

コア人材の育成研修 in 町田

2023 年 7 月 30 日

開催日時：2023 年 7 月 30 日（日）10:30 – 17:00
開催場所：町田市 まちだ中央公民館
参加人数：30 名（歩ける人 24 名、車いすユーザー 6 名）
主催：一般社団法人 WheeLog
後援：町田市、町田市社会福祉協議会、一般社団法人東京都作業療法士会
運営協力：特定非営利活動法人 町田ハンディキャブ友の会
会場提供：町田市生涯学習センター

医療介護関係者、自治体関係者、企業、車いすユーザー、学生など、総勢 40 名が参加。そのうち 33 名を 5 つの班（各班 1 人は車いすユーザーが参加）に分け、車いすの乗車体験をしながら原町田七福神巡りを中心とした 9 つのミッション完成をめざして街歩きを行いました。「車いすに乗車して初めて気づく様々なバリアが街には沢山ある」という意見が多く、参加者の皆さんも様々な気付きが得られたようでした。

今回のプログラムは、町田市で車いす街歩きを広めてくれるハブとなるような人材を中心に参加していただきました。参加者のほとんどが WheeLog! アプリに触れたことが無かったり、車いす街歩きを経験したことが無かったにも関わらず、感想を聞くと比較的満足度が高い会となったのではないかと考えます。街歩きプログラムのマニュアル冊子も希望者 20 名ほどに配布することができ、本取り組みへの関心度が高まったと思います。

学習ポイント

街の人のあたたかさ

心のバリアフリーや、障害（者）に対する理解を感じた。人の力があれば普段いけないところにも行けることもあることに気がついた。

車いす目線で移動

都心と比べて町田は歩道が広く、お店に入りやすかった。車いすに乗ってみると、路面が凸凹していたり、歩道を自転車が走ったりと注意が必要だった。

神社のバリアフリー

神社では石畳や砂利道があり大変だった。バリアフリーなお寺もあり、スタンプを押す机も車いすで使うことができた。

お店のサービス対応

居酒屋に車いすマークが掲示されていてウェルカム感を感じた。ファストフード店ではメニューが見やすい位置に置いてあったり、番号札を使って席まで持ってきてくれた。

バリアフリートイレ

バリアフリートイレでも手すりの位置やボタンの位置によっては使いにくいことがあった。そのほかにもトイレットペーパーの位置が高かったり、背もたれがないところもあった。

WheeLog! を通して街の良さを再発見したり、これまでなかったつながりが作れたり、バリアフリーのみだけではない学びやきっかけを得ることができました。なにより、楽しみながらできることが大きな魅力だと感じています。

大関 純平

訪問看護リハビリステーション
ヨリドコ　副主任　理学療法士

コア人材

車いす街歩きイベント in 町田

2023 年 9 月 30 日

開催日時：9月 30 日（土）10:30 ～ 17:00
開催場所：町田市生涯学習センター　7 階ホール
参加人数：48 名（歩ける人 41 名、車いすユーザー 7 名）
主催：一般社団法人 WheeLog
共催：町田市生涯学習センター
後援：町田市社会福祉協議会、一般社団法人東京都作業療法士会
　　公益社団法人東京都介護福祉士会
運営協力：特定非営利活動法人 町田ハンディキャブ友の会

7 月のコア人材育成プログラムに引き続き、町田の生涯学習センターで街歩きイベントを開催しました。まさに老若男女！大学生から後期高齢者と思われる方まで、「町田の街歩き」という呼びかけに集まった約 50 名。中には介助犬を連れた方や留学生の姿も見られました。

初めて参加する方にとっては、すべてが新鮮だったと思います。特にチーム構成は、自分の親よりも年上の方や自分の孫と同じくらいの年齢の方、医療や福祉関連事業所で働く方、学生さん等々。何事もなければ話すこともない方々とミッションをクリアするために話し合ったり食事をしたりと、日常あまり経験することのない時間を過ごしたのではないでしょうか。また、実際に車いすに乗ってバリアをさがすということ、つまり目視での「発見」ではなく「体験」して身体で感じることは、他の方に伝えるときもより臨場感の高いものになっていくと思われます。

みんなでミッションに挑戦！

町田の和光大学ポプリホールを調査せよ

町田の薬師池公園を調査せよ

せりがや公園で噴水を探せ

町田のクランベリーパークを調査せよ

町田のスヌーピーミュージアムを調査せよ

せりがや公園で
ポケモンのマンホールを探せ

町田のダリア園を調査せよ

車いすで街を移動すると見える景色が全然違う事、色んな方々と共有ができていつも楽しいです。いいこともあればそうでないこともありますが、毎回違う発見ができます。WheeLog! のイベントに一度参加してほしいです！

安西祐太
株式会社ファイブスター
理学療法士

司会

みんなの街歩き体験

Wheelog.

街歩きスタート！走行ログ開始

腹が減っては街歩きはできぬ

街中のいたるところにバリアが！

初めて乗る車いすでの電車移動

②体験ミッション

走行ログを記録した	5	
歩道の傾きを体験した	5	
交差点の段差を体験した	5	
人混みの中を移動した	10	
飲食店で食事した	10	
車いすに乗って手動のドアを開けた	5	
お店で棚の商品を手に取った	5	
お店のレジで支払いした	5	
トイレに入って移転した	10	
トイレの設備を一個一個確認した	5	
トイレを見つけるのに苦労した	5	
エレベーターの鏡を使って外に出た	5	
エレベーターに乗れずに1回以上見送った	10	
エレベーターを見つけるのに苦労した	5	
車いすユーザーさんとバス・電車に乗った	10	
街の人が手助けしてくれた	10	
チーム全員が車いすを体験した	10	

Wheelog.

点

この道なら通りやすい！

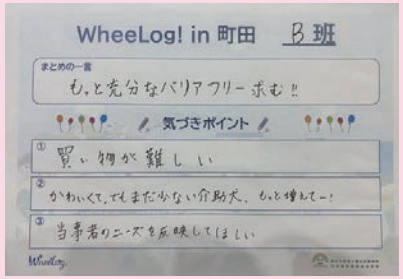
エレベータに乗ってホームへ

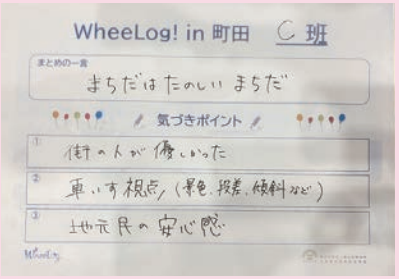
温かさを感じるお店の対応

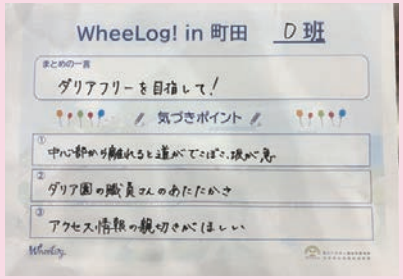
バリアフリートイレを調査！

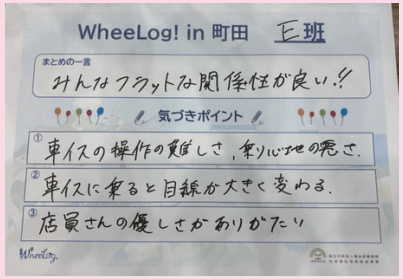
車いすからの移乗にチャレンジ

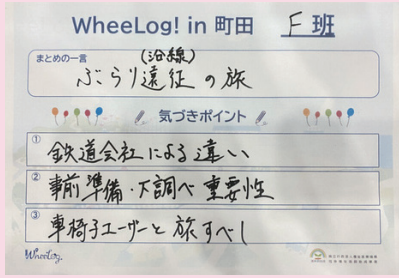
みんなの気づき

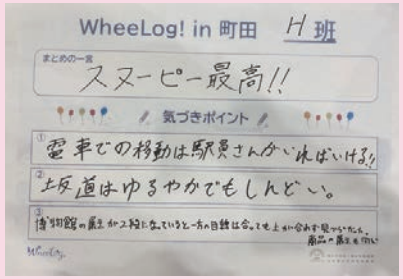


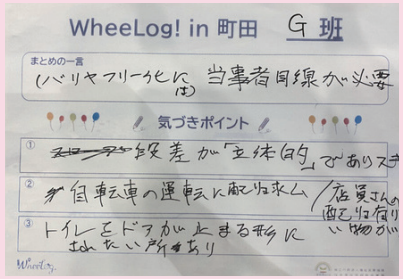


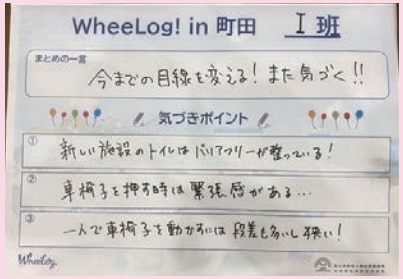












みんなの感想

町田の街を知ることのきっかけが車いすユーザーさんの目線、介助者目線で歩けたのは貴重な経験になりました。このイベントを他の方に紹介する時は「今まで見えていたものと違う世界が見えますよ」「実際の仕事では体験できないような利用者さんの視点にたつ良い機会ですよ」といったことを伝えたいと思います。

社会人（作業療法士）、歩ける人

年齢問わず、いろいろな方が参加でき、交流がしやすいイベントで、いろんな方に勧めたいイベントだった。自分の周りの当事者にアプリや街歩きを紹介していき、広めていきたい。車いすでの外出経験が少なかったり、特定の範囲しか行っていない人などに、街歩きイベントを勧めたいと思う。

会社員、車いすユーザー

大学で福祉関連の授業を受けていて、そこで紹介があり参加しました。日常、車いすユーザーさんは見ますが実際に乗ったのは初めてで、視線の高さの違いや小さな段差でも乗り越えるのに大変だったりと普段気づかないことに気づいたことなど、良い経験ができたと思います。

学生、歩ける人

その 1：住み慣れた街の視点が変わるきっかけになる

町田駅周辺というのは飲食店が多い繁華街というイメージを持たれることが多いと思うのですが、意外とこういったお寺や神社が多くあり、観光として巡ることができるということも分かり、さらに車いすからの視点も知ることができ、車いす街歩きを通して、町田という住み慣れた街の視点が変わるきっかけにもなったと思います。

初めての車いす操作をしながらの街歩き。この街に住んでいながら知らないことばかり。1cmの段差がバリアであること、街中で車いすを自走させてもまっすぐ行かないのは雨水などの排水のため道路や歩道に傾斜がついていること・・・など、多くのことを学び、同時に車いすユーザーさんの苦労を知ることができました。街中では車いすが近づくと道をあけてくださる方が多く、皆さんの優しさを感じ、商店では車いす乗車からでは手の届かない高さの商品も、お願いすれば店員さんが取ってくださいました。

その 2：地域の多様な人材が参加！

特に印象的だったのは、地域に根ざした多様な背景の方々が協力し合うことができていたことです。7 月には後援として町田市、町田市社会福祉協議会、一般社団法人東京都作業療法士会、9 月には共催として町田市生涯学習センター、後援として町田市社会福祉協議会、一般社団法人東京都作業療法士会、公益社団法人東京都介護福祉士会など、さまざまなセクターの方々ともにプログラムを実施することができました。

参加者には、リハビリ職種、介護福祉士、看護師、NPO 関係者、自治体職員など、多岐にわたる職種の方々が一堂に集まり、その参加者の満足度の高さは非常に高く、町田の街づくりを大きく推進してきました。

地域に根ざした街づくりの取り組みをさらに深め、イベント企画から実施に至るまで、地域包括的な共生社会の形が作られたと感じました。車いすユーザーをはじめ、病気や事故、高齢など様々な背景を持つ人々が地域で活動できるように、この度のプログラムは、繋がるツールとなり得ると信じています。

その 3：若い世代の参加から街歩きが波及

私たちのイベントには、ICT を活用し、スマートフォンを日常的に使う若い世代が大きく貢献しています。町田のプログラムでは、全体の 23% が 10 代から 20 代の若者たちの参加がありました。

若い世代が参加することの重要性は計り知れません。その理由は、教育の現場で若者たちにバリアフリーについて実際に体験してもらうことにより、彼らが社会の将来を担う重要な役割を果たすようになるからです。

今回のプログラム後には、参加したメンバーが自発的に街歩きプログラムを大学で実施するまで波及していました。

この取り組みを通じて、車いすユーザーや難病患者が社会に存在する一員であるという認識を若い世代が持つことで、より住みやすく、生きやすい社会を築いていくことができます。

行政がさらにコミットし、義務教育現場、家族介護教室等様々な機会で取り組まれることを望む

井口健一郎
桜美林大学 非常勤講師

①革新性、独創性

町田の地域の中には、2023 年 7 月現在、車いすユーザーが集まるプラットホームは存在していないようである。そういった中で、町田市の当事者、関係団体所属の方々や地域住民、介護者、専門職などが一緒に車いす街歩きによる地域実踏をしながら、フラットで付き合えるプラットホームの構築が期待される。

②地域連携、包括性

町田市については、ハンディキャブ友の会、東京都作業療法士会、桜美林大学、町田市介護福祉士会、地元の社会福祉法人職員、訪問リハビリテーション事業所職員、訪問看護事業所職員など様々な地域で活躍している団体を糾合することができた。また町田市教育委員会生涯学習センターもバックアップしてくれている。

③活動の結果生み出される効果への期待

今回、初めて WheeLog! の街歩きに参加された方々も数多くいた。今回は、障害福祉分野が中心であったが、高齢者分野も町田市は機関連携がしっかりしているため、そのネットワークの有効活用が期待される。町田市は、全国でも転入者数が上位でファミリー層に人気がある地域でもある。今後は、小学生等の教育場面にも広げることも期待できる。

④継続性

②で述べたように、町田市の様々な団体が数多く参加しているということと、町田市の中では、D フレンズというスターバックスコーヒーと連携して認知症の人の居場所作りなどの取組みもある。

⑤展開性

今回は、町田駅前からさらにエリアを拡大し、電車に乗るなど今後は、町田市に根差した生活上でのバリア（たとえばスーパーに買い物に行く、登下校の通路など）地域に密着した内容で展開できるとよい。

⑥ストーリー性

一度目（7 月）に初めて参加したメンバーが引き続き、参加し、コア人材としてうまく各チームをリードしていた。さらに定期的にイベントを開催するために集まれるような実行委員になれることが望ましい。

⑦社会課題の解決策としての妥当性

車いすユーザーの集まれるプラットホームとしての役割が期待される。各種専門職、職能団体、事業者が「車いすユーザーのために」というワントピックで集まり、結束できたことが大きな成果であったように感じる。町田市の開催は 20 代、30 代の参加者層が多く、今後の発展性が期待される。

感想

今、ユーチューブ等で車いすの操作等について学習することはできますが、ほんの1cmの段差に車いすの前輪がゴツンとぶつかって身体に伝わってくる振動は体験以外ではできないものです。初めて車いすに乗車した参加者が「こんな小さな段差もバリアですね」といった言葉が「街のバリアの発見」のすべてを物語っているのかもしれません。

今回の街歩きに参加した方で介助犬を連れて来た車いすユーザーさんがいました。また、ペースメーカーを入れた内部障害者、補聴器をつけた聴覚障害者等の参加もあったかもしれません。介助犬への対応方法や外見では分かりづらい障害のある方々への配慮等、ご本人から申告のあった時はこうした障害のある方の声を聞き、障害特有のバリアを参加者に伝えることで、街のバリアの発見と同時に、様々な障害への理解が深まっていくのではないでしょうか。

展望

「こんな小さな段差もバリアですね」をより多くの方々に知っていただきたいと思います。「参加して楽かった」「あっという間に時間が過ぎた」「気になっていたことが分かった」等といった感想の出るような、そして「笑顔で帰る」そんなイベントづくりをめざしていければ良いのではないでしょうか。

地域に根差した人たちの力が集結

①医療福祉に関わる多様なメンバーが参加

②地域団体や自治体による協力

③若い世代の積極的な参加（全体の 23%）

歩ける人の心のバリアフリー醸成

①ハード面の整備だけでなく、わかりやすい情報共有も大切

②歩く人と車いすユーザーの目線で感じることの違いの発見

③訪れる場所に段差があるなど、様々なところに壁があることを実感

初めて車いすの操作を学んでから数十年。操作経験のない参加者の方々と一緒に街を歩いて初心を思い出し、最近“慣れ”に頼っている自分を再確認しました。初心忘るべからず！大切ですね。

井上 廣美
特定非営利活動法人 町田ハンディキャブ友の会 事務局長

WheeLog! は「人と人を繋いでくれる」そして「街を再発見できる」本当に素敵なプロジェクトだと思います。1 年間ありがとうございました。そしてこれからもよろしくお願いいたします。

永島 匡
株式会社 Reha Labo Japan 地域連携室 室長
作業療法士

❸ プログラムの効果

研究の趣旨：車いすユーザーも社会参加が可能な社会をつくる

取組

WheeLog! 車いす街歩きプログラム

検証　検証

期待されること

①歩ける人

障害当事者に対する意識向上
（心のバリアフリーの醸成）

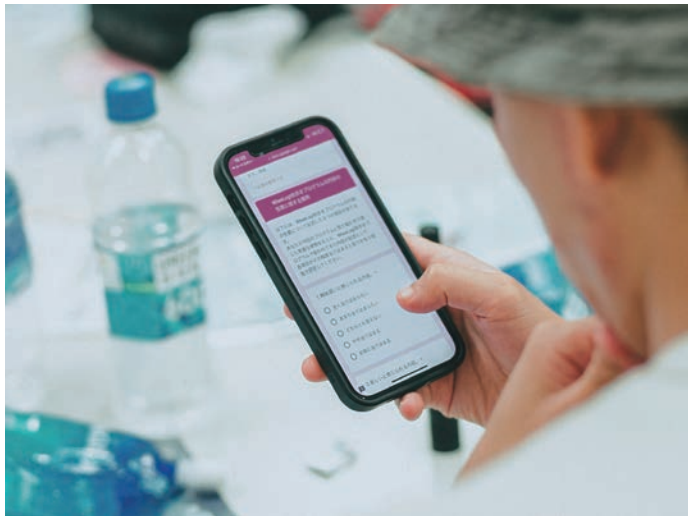
②車いすユーザー

外出意欲の向上

理想とする社会

車いすユーザーが
気軽に外出できる地域の構築

車いすユーザーも
社会参加が可能な社会の創出



WheeLog! では、車いすユーザーが外出をあきめず社会参加できる世界をつくるために「WheeLog! 車いす街歩きプログラム」を提供しています。

本研究では、「WheeLog! 車いす街歩きプログラム」が、

①車いすユーザーの外出意欲の向上
②歩ける人の障害当事者に対する意識向上
（心のバリアフリーの醸成）

の 2 つのルートを通じて、車いすユーザーが気軽に外出できる地域を構築し、車いすユーザーも社会参加が可能な社会を作り出すという仮説を構築し、その検証を行いました。

アンケート調査について

2023 年 7 月 15 日から 9 月 30 日に計 7 回の「WheeLog! 街歩きプログラム」の参加者に対し、体験前後の意識の変化を測定するため、事前と事後の 2 回アンケート調査を実施した。
調査は、①車いすユーザーの「外出意欲の向上」についての調査と、②歩ける人の「心のバリアフリー意識」に与える影響についての調査を2種類実施した。

全体

有効回答数

①歩ける人向け：191
②車いすユーザー向け：24

年齢

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
車いすユーザー	1	2	8	8	3	2	0
歩ける人	17	57	41	37	16	16	7

性別

	男性	女性	無回答
車いすユーザー	17	7	0
歩ける人	114	76	1

歩ける人

参加の動機

街歩きに興味があったから。	67
家族・友人・知人に誘われたから。	76
学校・職場で行われるイベントだったから。	86

WheeLog!街歩きプログラムへの参加回数

1回目	139
2回目	27
3回目以上	25

車いすユーザー

車いすの利用状況

自走式	7
電動式	14
介助式	2
ストレッチャー式	0
利用していない	1

車いすの利用年数

利用していない	1
1年以下	2
2～4年目	5
5～7年目	4
8～10年目	1
11年以上	11

介助の必要度

いつも必要	4
ときどき必要`	9
全く必要ない	11

WheeLog!街歩きプログラムへの参加回数

1回目	15
2回目	2
3回目以上	7

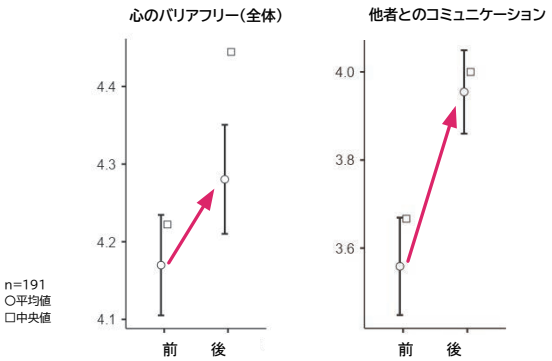
①歩ける人への効果

心のバリアフリーの醸成

「WheeLog! 街歩きプログラム」参加者（歩ける人）の心のバリアフリー意識についての前後比較から、同プログラムは、心のバリアフリーの醸成に有意に効果があることが明らかになった。

「WheeLog! 街歩きプログラム」は、心のバリアフリーの中でも、多様な他者とコミュニケーションを取る力の醸成に対して、有意な効果があることが明らかになった。

心のバリアフリーへの効果



分析に使用した心のバリアフリーの三要素

- 基本的人権と社会参加
- 多様な他者とのコミュニケーション
- 障害の個人モデルの否定

歩ける人からの評価

「WheeLog! 街歩きプログラム」の参加者からは、同プログラムについて、車いす体験、振り返りともに、楽しい・充実した等の高い評価が得られた。また、車いす体験、振り返りともに、楽しい・充実した等のポジティブな評価と、心のバリアフリー醸成の間には有意な正の相関が見られた。

また、「WheeLog! 街歩きプログラム」の参加者からは、同プログラムは、興味価値（興味深い・楽しい）、私的獲得価値（自己理解や成長できる）、実践的利用価値（社会の中で役に立つ）のいずれの価値についても、高い評価が得られた。また、これらの評価と、心のバリアフリー醸成の間には有意な正の相関が見られた。

プログラムの評価（ポジティブ感情）

楽しい/充実した/やる気に満ちた（意欲的な）

	体験	振り返り
平均	4.23	4.34

※5点満点
n=191

プログラムの持つ価値への評価

	興味価値	私的獲得価値	実践的利用価値	平均値
平均	4.42	4.19	4.62	4.41

※5点満点
n=191

興味価値

興味深いと感じられる内容
楽しいと感じられる内容

私的獲得価値

自分自身のことがよりよく理解できるようになる内容
人間的に成長すると思えるような内容

実践的利用価値

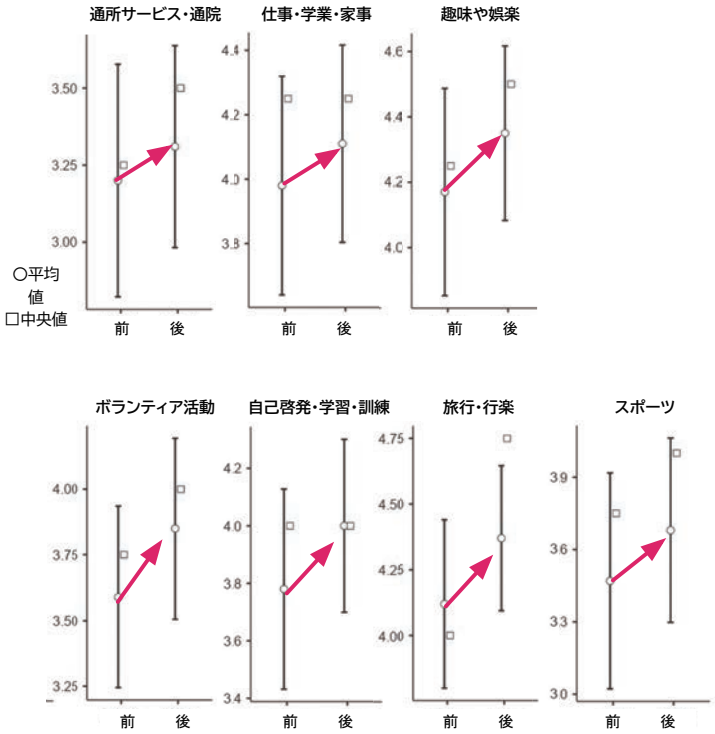
社会の一員として活躍するうえで大切な内容
社会的な活動（職業・ボランティア等）を通して社会に貢献しようとするときに役に立つ内容

②車いすユーザーへの外出意欲への効果

目的別の直接的外出意欲

「WheeLog! 街歩きプログラム」参加者（車いすユーザー）の外出意欲についての前後比較から、「WheeLog! 街歩き」は、全ての目的について外出意欲を向上させる傾向が見られた。

具体的には、一次外出（通所・通院）、二次外出（仕事・学業・家事）、三次外出（趣味や娯楽、旅行、スポーツなど）の全ての全ての目的で、向上傾向が見られた。



外出の動機付けと外出意欲

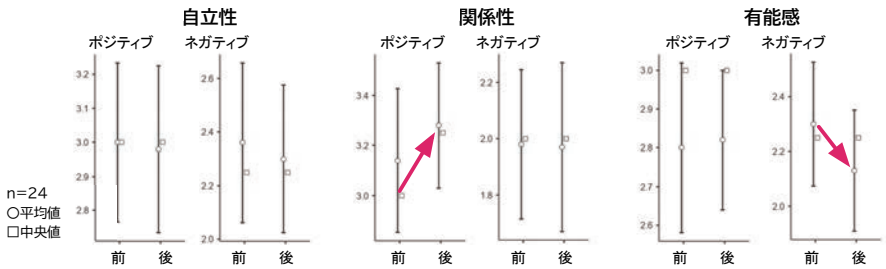
「WheeLog! 街歩きプログラム」参加者（車いすユーザー）の外出意欲についての前後比較から、「WheeLog! 街歩き」は、外出の動機を生む要素とされている3つの要素（内的動機付け）※を一部改善する傾向がみられた。

具体的には、以下の傾向がみられた。

①関係性（大切な人とのつながりや一緒に過ごすことでの暖かな気持ちなど）に関するポジティブな感情の上昇

②有能感（自分の能力に対する不安や失望、失敗に対する恐怖や自責の念等）に関するネガティブな感情の減少

このことから、「WheeLog! 街歩きプログラム」への参加が、他者との関係性の認識をより良いものにするとともに、不必要な不安や自責の念からの解放を生んでいる可能性がうかがえる。



関係性のポジティブ感情の例

自分にとって大切な人たちと、親密な関係でつながっていると感じる

一緒に過ごす人がいると、温かい気持ちになる

有能感のネガティブ感情

自分の能力に不安を感じる

自分のミスのせいで、失敗したと感じる

外出の動機付けと外出意欲

関係性に関するポジティブな感情の上昇と、二次外出（仕事・学業・家事）及び三次外出（趣味や娯楽、自己啓発、ボランティア、旅行など）を中心とした外出の意欲の向上には、相関関係がみられた。

つまり、関係性に関するポジティブな感情が上がると、外出の意欲が向上する、又は、外出の意欲が向上すると、関係性に関するポジティブな感情上昇する可能性がある。

	自立性 ポジティブ	自立性 ネガティブ	関係性 ポジティブ	関係性 ネガティブ	有能感 ポジティブ	有能感 ネガティブ
通所サービス・通院	0.122	0.194	0,084	0.052	0.151	0.137
スポーツ	0.028	0.077	-0.017	-0.359	-0.326	0.112
仕事・学業・家事	0.304	-0.347	0.573**	-0.278	0.261	0.214
趣味や娯楽	0.238	-0.152	0.472*	-0.299	0.018	0.209
ボランティア活動	0.227	-0.249	0.403*	-0.403*	0.376	0.036
自己啓発・学習・訓練	0.277	-0.357	0.457*	-0.200	0.414*	0.018
旅行・行楽	0.296	-0.019	0.583**	-0.182	0.078	0.189

皆様と一緒に実践と研究ができてうれしかったです。ありがとうございました。皆様の取組の一つ一つは小さいかもしれませんが、社会を変えていく力を持っていると信じています。みんなで共生社会を作っていきましょう！

御手洗 潤
東北大学公共政策大学院
教授

WheeLog! 街歩き体験が異なる生活環境にある人々との繋がりを深め、さまざまな立場の人々がお互いを理解し、支え合う文化が広がっていくことで、社会全体がより豊かになると信じています。

安藤 理智
東北大学 大学院法学研究科
学術研究員

車いす街歩きを通して、普段の街の風景がこれほど違って見えるのかと驚かされました。このプロジェクトに関わらせていただき、とても貴重な経験と学びの機会をいただきました。本当にありがとうございました。

宮平ひなた
東北大学公共政策大学院
修士 2 年

④ 事業の評価

車いす街歩き報告会参加者の感想

研究について

- 様々な立場の専門家から街歩きイベントについての有用性についてのお話を聴けたことがとても良かったです。特に印象的だったのは、御手洗先生の「知識としてだけでなく体験することの重要性や、そこに楽しさが加わりながら社会を変えていける力がある」という、イベントを行うことの意義についてのお話がとても素敵でした。
- 街歩きがどんな感じなのか、その効果等知れたので良かった。参加したいと思った。
- WheeLog! の効果を学術的に検証しているのがすごいと思った。

街歩きについて

- 以前参加した街歩きから期間が空いてしまいましたが、こんなにも活動の幅が広がり、エビデンスも確立されつつあるという状況に驚きました。想いの力だなと強く感じました。
- イベントに参加していて、とても有意義であり、新たな視点で見ることが出来た。研究班により、検証されたことは今後の活動に有効的であると思った。
- 高齢の男性車いすユーザーの社会進出のきっかけになっているのが新鮮だった。
- 男性の方が外出機会がないまま居ること。街歩き体験が身近な外出の一歩になること。マップづくりはその体験の積み重ねの共有であること。

監修について

- ゲーム性のあるイベントを共に行うことでお互いの見え方・考え方を楽しく掛け合わせることが出来る。そのような場が整ったタイミングで社会課題を考えるからよりその課題が自分ゴト化するんだと改めて感じました。
- ひとつは催事の意味を、継続性を持たせて浸透を図ってゆくために尽力を示す区役所職の上位ポジションからお言葉を窺えたこと。ひとつは当事者の方々が本意を示して充実して、共に生きてゆけるための分析。

取り組みについて

- すごく温かい取り組みで心のバリアフリーが広がっていると感じました。そして、議会につながったり、学術的な検証もされており、大変有意義だと思いました。
- 今回の報告会に参加ができてとても勉強になりました。ハード面とソフト面両方からのアプローチが重要だと感じたのと同時に情報を点として提供するのではなく連動して伝えていくことが今後大事になると思いました。
- 街歩きプログラムに参加した当事者からの感想などがデータとして今後も残していけるのは貴重であり、私自身も参加して他の参加者の意見なども聞いてみたいと思いました。

報告会について

- 運営の方が支えてくださっているおかげで、WheeLog! がどんどん世の中に浸透していることがわかって嬉しくなりました。
- みなさんの熱いご発表を食い入るように拝見しました。しかも楽しそうで素敵でした。
- スムーズな進行をありがとうございました。様々な視点から取り組みについて話されており、大変興味深かったです。
- 職場の人に誘われてなんとなく街歩きに参加しただけでしたが、今日の報告等を聞いて、WheeLog! の目指すところなり想いを整理できて良かった。
- 学生（実習生）が参加でき、とてもよい勉強になっていた。
- 具体的な事例報告、データ分析でわかりやすかった。

A：コア人材の育成研修

井口健一郎
桜美林大学 非常勤講師

車いすで墨田区、町田市でA：地域におけるコア人材の育成研修を実施した。

まず、墨田区の本プログラム参加者は、車いすユーザー、理学療法士、作業療法士、介護教員等の医療 / 福祉従事者、行政関係者中心で行われた。双方、気温が30度を超す猛暑であったが、猛暑の中の車いすユーザーの困難性や地域での取り組み（涼み処等の設置等）に着目する事ができた。

実際にB：（市民を対象とした）街歩きプログラムの実施のコア人材となるメンバーが1. 座学、2. 実地研修、3. 情報演習を一巡することにより、B：（市民を対象とした）街歩きプログラムの実施の実施の見通しが立ったように感じられる。特にゲーミフィケーションで実体験をすることにより、見通しが立ったと思われる。

プログラム実施後のコア人材がB：（市民を対象とした）街歩きプログラムの実施にどのように関わっていくかが、重要である。

プログラム実施後のふり返りでコア人材が1. 座学、2. 実地研修、3. 情報演習をどのように評価したか。市民向けに対してどのような提案があったのか。

厚生労働省は地域共生社会を「制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会」と定義している。

そして、地域共生社会の形としてこれまでの福祉政策が整備してきた、子ども・障害者・高齢者・生活困窮者といった対象者ごとの支援体制だけではなく、地域の中で、「人と人とのつながりや参加の機会を生み育む多様な活動を通して、これまでの共同体とは異なる新たな縁」に言及し、「特定の課題の解決を念頭に始まる活動だけでなく、参加する人たちの興味や関心から活動が始まりそれが広がったり横につながったりしながら関係性が豊かなコミュニティが生まれる」ことも期待している。

そういった観点からも今回のA：地域におけるコア人材の育成研修は一定の成果を得ているため、有用と考えられる。本プログラムはA：地域におけるコア人材の養成であり、その成果はB：（市民を対象とした）街歩きプログラムの実施にいかにハブとなり、中心者としてパフォーマンスできたか、に委ねられる。

B：車いす街歩きイベント

インタビュー調査

ここでは、街歩きプログラムに参加したコア人材に対するインタビュー調査を行った。（車いすユーザー４名、歩ける人５名）

本稿は、インタビュー調査でヒアリングした内容を基に、成果について述べていきたい。主な意見は、以下の通りである。尚、墨田区及び町田市で共通している内容についてのみ、抽出し、類似の意見及び住民団体等固有の条件等については、除外した。

【街歩き企画の可能性】

- 前回は、中心地で公共交通機関に乗ることはなかったが、２回目は、交通機関を乗り、様々な場所に赴いた。１回目は、街の散策であったが、２回目はスモールトリップの要素があり、行った場所自体を楽しむことも貴重だと感じた。
- 若い人たちも参加していて、その人たちに会うこともインセンティブになる。参加するということも参加の動機になる。ここで会う友達のような関係ができればよい。
- カフェが点在したりしているため、食べ歩きなども企画できる。
- 通学路を通ってみようなども面白いかもしれない。小学校の先生自身も周りに福祉関係の関わりがある人が他人事感があることが多い。車いすの学生もいるが、当事者にしか知らない道がある。当事者を先生に、一緒に回ると面白いかもしれない。
- 参加者の中から「誘ってくださいね」と言ってくれる人が多かった。単発のイベントで終わらせると、あまり効果がない。いかに続けていくか？１年２年など長いスパンでやっていくことが重要。地域の中で今後定着させるためには継続することが重要。

【フレームワーク】

- 一回目に一緒にやった人がいたので親しみやすくなった。高齢、児童もできればいい。
- 各地域の職能団体とともに話し合う場をつくれば良いのではないだろうか。
- 在宅ケアマネが参加し、地域資源の理解を深める場面として有効だと思う。道路の不備や社会資源の把握に役立つ。いわゆるバリアというものが多いが、20、30年前と違って、今のバリアは昔とは違う。公共交通機関は何も言わなくても支援をきちんと支援してくれる。しかし、それが車いすユーザーや支援者に共有されていない。情報量が増えていくと支援しやすくなる。
- 最初は知り合いや口コミで来たり、地域で元々繋がりがある人が参加してくれる。地域の中に老若男女にニーズがある。２回目は、子供が参加してくれたり、老人会の人が来てくれた。こういった広がりが大切。地域で働いている人が多かったので、仲間や知り合いを増やすのがとても意義がある。

【当事者への可能性】

- 以前はその時は長い距離を歩いたりはしなかった。そこだけで終わっていたのが、全く知らない場所までいき経験をできた。実は車いすに触ったことがない人がものすごく多い。一緒にやることはいいと感じる。
- 地域包括などにアイデアとしての提供。アイデアをうまく活用してくれたらよいと思う。
- 通いの場で街歩きをやる。予防事業の方で、健康体操や認知症教室などがある。そこにアイデアとして組み込んでいく。住民向けプログラムとして、家族介護教室など市区町村で予算組みをしてほしい。

事務局
一般社団法人 WheeLog

織田友理子
全体統括

杉山葵
プロジェクトマネージャー

織田洋一
法務・経理

松下雄一
資料 / デザイン制作
講師

金井節子
資料 / デザイン制作補助
事務連絡

吉田雄一
システム対応
事務連絡

監修
有識者

井口健一郎
桜美林大学 非常勤講師

関口 芳正
墨田区役所 福祉保健部長

大場 秀樹
東京都リハビリテーション病院
作業療法科 主査

井上 廣美
特定非営利活動法人
町田ハンディキャブ友の会
事務局長

鳥越 勝
とりすま 筋ジス活動家

永島 匡
株式会社 Reha Labo Japan
地域連携室 室長

墨田・町田プログラム運営

研究班
東北大学公共政策大学院

御手洗 潤
東北大学
公共政策大学院 教授

安藤 理智
東北大学大学院
法学研究科 学術研究員

宮原ひなた
東北大学
公共政策大学院 修士 2 年

バリアを知り
バリアを越える

本書は令和5年度独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業の助成を受けて製作しました。

本冊子の一部または全部を許可なく複写、複製、転載することを禁じます。

発行元：一般社団法人 WheeLog　　2024 年 3 月発行